

# 市場調査による底びき網解禁時におけるマガレイ資源の推定

福島県水産試験場水産資源部  
平成17年度事業報告書

## 1 部門名 水産業－資源管理－マガレイ

分類コード 19-04-43000000

## 2 担当者 山廻邊昭文

## 3 要旨

マガレイは、底びき網漁業において、禁漁期間（7、8月）後の9、10月における漁獲量が多く、この時期の狙い魚種として漁業者の期待が高い。このため、この時期の資源状況を市場調査結果から推定できるかについて検討した。

9～10月の水揚物の全長組成は年により異なり、平成14年と平成16年は全長20cmと25cm前後にモードがみられ、漁獲サイズの範囲が広いのに対して、平成15年と平成17年は全長17～19cmにモードを持つ小型魚の漁獲が多かった。

例年9月に20cm前後をモードとして漁獲される小型魚はその年の春から初夏に漁獲加入する群であり、平成14年と平成15年には5～6月、平成17年には3～4月に全長15～17cmにモードを持つ群としてその一部が漁獲されている。

底びき網による本種の漁獲量は2、3月に最も少なく、その後増加して、9、10月に最大となるが、禁漁期間前後の5～6月と9～10月の漁獲量には正の相関が認められた。

9～10月における全長21cm以下、全長22～26cm階級の漁獲割合は、5～6月における全長19cm以下、全長20～24cm階級の漁獲割合と非常に類似していた。

底びき網解禁後の9、10月における本種の資源状況については、禁漁期間前の5、6月の底びき網による漁獲量、水揚物全長組成を調べることで予測できると考えられた。

## 4 その他の資料など

なし